

誕生寺の了誉聖岡上人をテーマに講演会

12月1日（日）、第11回文書館カレッジ・常陸大宮市史講演会連携企画「没後600年 佐竹一族に生まれた高僧 三日月上人了誉聖岡」を市文化センターロゼホールで開催しました。

「ろくやさん」として知られる了誉聖岡上人は、暦応4年（1341）、佐竹氏の一族・白石志摩守宗義（義光）の子として上岩瀬（のちの誕生寺）に生まれました。戦乱によって幼くして父を亡くした聖岡は、瓜連常福寺りょうじつしょうにんの了実上人や太田法然寺ねんしょうしょうにんの蓮勝上人のもとで浄土宗義を学び、その後さらに神道や和歌に至るまで兼学し、数々の著作を残すとともに、浄土宗教団を独立した組織として確立しました。額にあった三日月形から光を放ち、その明かりで昼夜を問わず勉強に励んだ、という逸話から「三日月上人」の名でも知られています。

本年は、了誉上人の没後600年にあたり、増上寺や常福寺といったゆかりの寺院では遠忌法要が開催され、大規模な展覧会も行われました。上人の生誕の地である本市においても、その足跡や文化財を紹介する講演会を開催しました。

講演会では、上人ゆかりの宝物を所蔵する誕生寺の永徳眞隆住職から「二十六夜尊聖岡上人と誕生寺」、茨城大学の高橋修さんから「聖岡出生の秘密」、茨城城郭研究会の五十嵐雄大さんから「岩瀬郷の二つの城跡」、北海学園大学の鈴木英之さんから「了誉聖岡の学問と思想」という内容でご講演をいただきました。市内外から多くの方が来場され、熱心に聴講されていました。

この講演会での成果は、現在進められている常陸大宮市史の古代・中世編に反映されることとなります。ご期待ください！

本講演会の関連行事として、歴史民俗資料館大宮館では同テーマの企画展を開催中です。来年1月19日（日）までですので、ぜひご観覧ください。



▲永徳眞隆氏



▲高橋修氏



▲五十嵐雄大氏



▲鈴木英之氏